



けんこつ323

発行 特定非営利活動法人 全日本健康自然食品協会 (略称 NPO全健協) 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-19-7 本郷三宝ビル 6 階 A 号室
TEL03-3814-6052 (代) 編集: 企画委員会 c-10



「IGF-1」(インスリン様成長因子-1)はその名の通り、心身の成長に欠くことのできない物質として、思春期をピークに分泌する成長ホルモンの主要な作用を担っているといわれます。

IGF-1は成長に必要なだけでなく、細胞の新陳代謝を活発

にし、自然治癒力や免疫力を高め、病気や老化予防に重要な働きをし、アンチエイジングの鍵を握る物質としても知られています(4頁表1)。

しかし、これまでIGF-1は成長ホルモンを介してでしか増えないと考えられており、IGF-1を育毛などのアンチエイジング治療に安全に用いる方法は見つかっていませんでした。

岡嶋研二先生は20年にわたる血液凝固学の研究過程で偶然、「知覚神経を刺激するとIGF-1が増える」ことを世界で初めて発見され、そこからさらに、知覚神経を刺激してIGF-1を増やす食品

成分の研究をスタート。「カプサイシンとイソフラボン」という最強の組み合わせを見出されました。これらの研究成果により、食生活を中心に生活習慣によって、安全にIGF-1を増やすことで、育毛をはじめ生活習慣病の予防や改善、さらに美容面でのアンチエイジング治療への応用が可能になったのです。

岡嶋先生は現在「毛髪内科」を立ち上げ、IGF-1を増やす内科的アプローチによる薄毛治療で、薄毛だけではなく、メタボリックシンドロームや更年期障害などさまざまな生活習慣病や老化現象の改善に、大きな成果をあげられています。

名古屋Kクリニック院長

おまじまけんじ
岡嶋研二先生に聞く

育毛・美肌・更年期障害・メタボ予防等々
アンチエイジングの鍵「IGF-1」を増やす
「唐辛子(カプサイシン)」と「大豆食品(イソフラボン)」の
組み合わせ

